

All Japan Jr Kick 藤原敏男杯

ルール

【試合方式】

25 kg級・30 kg級・35 kg級・40 kg級・45 kg級・50 kg級・55 kg級のそれぞれの階級で、男女混合 8 名によるトーナメント。

トーナメントは当日の抽選により決定する。

勝者が怪我等で次の試合に臨めない場合は、その選手に敗れた者が復活して次の試合に出場するものとする。ただし、KOもしくはTKOで敗れている場合はそれにあたらぬ。

【試合時間】

2 分 2 ラウンド（インターバル 30 秒） ※決勝は 3 ラウンド

【防具】

（主催者側で用意するもの）

12oz グローブ・ヘッドギア

（各自で用意するもの）

トランクス・マウスピース・バンテージ・膝サポーター・布製脛サポーター

男子：ファールカップ

※申告体重 45 kg 級以上のクラスに出場する選手は鉄製のものを使用すること。

女子：アブスメントガード

【服装】

ムエタイトランクス、もしくは試合に差し支えないパンツを着用する。

上半身の着衣は可。ただし、試合に差し支えのない程度のものであるとする。

シューズの着用は不可。

金属などの固いものを身につけてはならない。

【計量】

計量は試合開始 15 分前までにパスすること。

※九州予選は計量開始 8 : 30 9 : 30 までにパスすること。

※予選会は各階級リミットまでを可とするが、本戦では予選から期間が空くことから、体の成長を踏まえ 0.5 kg オーバーまでを可とする。

※階級を下げる為には減量することは固く禁じる。

【勝敗】

(判定)

試合終了後、ジャッジの集計によって決定する。

(KO)

10カウント以内に立ち上がれない場合。

(TKO)

- ①試合が明らかに一方的な場合。
- ②インターバル終了後、一方の選手が試合に臨めない場合。
- ③一方の選手が著しく負傷して続行不可能な場合。
- ④1試合を通して2回ダウンがあった場合。
- ⑤一方の選手に試合続行の意思がない場合。

(失格)

- ①集合時間に間に合わなかった場合。
- ②時間内に計量をパスできなかった場合。
- ③反則行為により、注意、警告を受けた後、さらに反則を犯した場合。
- ④悪質な反則により、レフェリーが即時失格と判断した場合。

(負傷判定)

アクシデントにより試合続行不可能となった場合、その時点までの採点で、勝敗を決定する。

※勝者が負傷等で次の試合に進めない場合は、その選手に敗れた者が次の試合に進む。

【ジャッジ】

3名がそれぞれ1試合を通してジャッジを下す。

2名以上のジャッジが支持した者を勝者とする。

(ジャッジのポイント)

有効打 : クリーン・エフェクティブ・ヒット

攻撃・積極性 : アグレッシブシップ

防御 : ディフェンス

主導権 : リング・ゼネラルシップ

以上4点を総合的に判断する。

※ジャッジは全てマスト方式を採用する。

【ダウンの定義】

- ①足の裏がリングに付かず倒れている状態、またはグローブがリングに付いた状態。
- ②立ち上がりはしたものの、寄りかからないと立ってられない状態。
- ③連続で攻撃され、立ってはいるがディフェンス出来ない状態。
- ④ダウンを取った場合、速やかにニュートラルコーナーで待機すること。ニュートラル

コーナーに着いた時点からコールを開始し、従わない場合はコールされない。

⑤両選手が同時にダウンし、10カウント以内に一方のみが立ち上がった場合、その選手が勝者となる。

⑥両選手が同時にダウンし、折り重なった状態の場合、レフェリーが双方を離してからダウンコールをとる。

⑦選手がラウンド間にダウンした場合、全ラウンドともゴングに救われることはなく、レフェリーカウントが終了後、ゴングを鳴らす。

【有効技】

下記の反則行為を除く、立ち技における全ての技を有効とする。ただし、首相撲は3秒までとする。

【反則行為】

- ①相手に唾を吐く行為
- ②下を出しての挑発行為
- ③かみつき
- ④サミング
- ⑤頭突き
- ⑥投げ技
- ⑦関節技
- ⑧さばおり
- ⑨転倒した相手への攻撃
- ⑩ロープを掴む行為
- ⑪下腹部を狙った攻撃
- ⑫相手の脚を取った状態で3歩以上の移動
- ⑬相手の攻撃を避けるため自ら転倒する行為
- ⑭遅延行為
- ⑮武器の使用
- ⑯暴言や悪態
- ⑰レフェリーの指示に従わないこと
- ⑱肘打ち
- ⑲顔面への膝蹴り